

東寺觀智院金剛藏『密教傳來脉譜正訛勘決』(290箱2号)の調査報告と翻刻

湯 浅 吉 美

はじめに

東寺觀智院金剛藏聖教類の閲覧調査報告の一編として、今回は標題資料を採りあげる。本資料は、いずれも唐の、海雲ならびに造玄の相承次第(いわゆる海雲血脉・造玄血脉)に対して杲宝が論難を加えたものである。全体としては、密教の思想的な展開や、日本に伝来するまでの

流れなどを、真摯に検討したものとなっている。密教史における重要文献と位置付けられる海雲・造玄の血脉を、より有効に読み解くうえで大いに参照されるべき資料と評価できるのではなかろうか。今回もまた従前と同じく、書誌事項と翻刻との提示に終始し、内容の検討には立ち入らないので、願わくは、しかるべき専門家の御高覧に俟ちたい。

報告に入る前に、毎度のことながら、東寺、同宝物館、さらに観智院の方々に満腔の謝意を表する。殊に、長者橋本尚信猊下、山田忍良師、新見康子氏には、相応しき御礼の詞もない。毎夏の調査で一方ならぬ御厚誼を辱うするのみならず、拙稿の公刊を常に御快諾くださることに對し、幾重にも御礼申しあげる。将来にわたり、この調査が継続されるよう、願って已まない。

また、岸田照泰貫首・所長猊下をはじめ、新勝寺及び仏教研究所の皆さまの御高配も忘れられない。地味かつ目を惹かぬ基礎研究に對して惜しみなく注がれる御温情なくして、かかる仕事を営々続けることは不可能である。別けても研究所事務局の伊藤照鏡師には、別して謝辞を捧げたい。本年もまた入稿締切の限界までお待たせしてしまつたことを、心よりお詫びする。

翻刻の提示に入る前に、ごく大まかに内容を紹介しておこう。

冒頭に記したように、本資料は東寺杲宝の撰に成り、唐の海雲・造玄の血脈に見られる問題点を指摘したものである。前者二十か条、後者十か条の「相違」を挙げ、一つ一つ検討している。条目を具体的に示せば、海雲記に對しては、①金界妙吉相違、②胎闕二祖相違、③金闕掬多相違、④金掬師資相違、⑤大師祖承相違、⑥慈覺相承相違、⑦金智種姓相違、⑧無畏先祖相違、⑨無畏來年相違、⑩大經訳時相違、⑪大經頌數相違、⑫義訣作者相違、⑬引文妄（マダ）設相違、⑭二仏同鉢相違、⑮不空付法相違、⑯惠果付法相違、⑰互為師資相違、⑱再天年紀相違、⑲再天一界相違、⑳護摩説處相違の二十か条、造玄記に對しては、①略出訳者相違、②円行相承相違、③二祖付法相違、④金界妙吉相違、⑤胎闕二祖相違、⑥金闕掬多相違、⑦金掬師資相違、⑧互為師資相違、⑨義訣作者相違、⑩大師祖承相違の十か条。ただし、造玄記で實際に記事のあるのは③までで、④以下は「（海）雲の記を破する中に注するが如し」として重出を避けている。¹ 密教思想的に

見た難点や年代的矛盾を、いかにも臆宝らしい精密さをもって検討しており、いずれの箇条も興味深い。現在の密教学では疾くに常識となったことや、あるいは「臆宝さん、違いますよ」ということもあるかもしれぬけれど、東寺第一の学僧による学説として、一読に値するものであることは間違いないだろう。

なお、海雲記について、血脈系図部分は同人の『金胎両界師資相承』に一致する。「金剛界記」は『略叙金剛界大教王師資相承伝法次第記』、「胎藏界記」は『略叙伝大毗盧遮那成仏神変加持経大教相承伝法次第記』を指すのであろう。造玄記については、血脈系図部分が同人の『胎金両界血脈』に一致する（いずれもいわゆる正統藏経に収載）。海雲の著述は大和八年（八三四）、造玄のそれは咸通六年（八六五）の成立である。²

また、見返し押紙と奥巻とに拠れば、本資料は頼恵のために記したものだという。頼恵は東寺百合文書り函一四九に同人書状があり、年次は元亨三年（一二三三）以

後、嘉暦元年（一二三六）以前と推定されている。一方「改名憲臈」とある名では、同よ函三二の一「大法師仁宝田地寄進状」（貞治三年（一二三四））に「故憲臈阿闍梨」と見える。おそらくこの人物と思われるが、これ以上のことは倉卒の間、手近のツールでは管見に入らなかった。いずれ南北朝期の東寺僧には相違ない。御教示を乞う。

《書誌事項》

密教傳來脉譜正訛勘決（290箱2号『目録』17-142頁）³
南北朝時代延文五年（一二三六〇）臆宝写 一卷

【装訂】卷子装。全長一〇m五六・七cm。

【表紙】後補素紙表紙。縦二七・一cm、横二三・六cm。

端裏に外題「密教傳來脉譜正訛勘決」、本文料紙との継目紙背に記名「宗賢」（いずれも直接墨書）。

【見返・遊紙】見返中央やや右寄りに「臆實私記」と墨書。その左に押紙あり、翻刻参照。遊紙なし。

【序・目録】序なし。第三・四紙に海雲記に対応する分の、第二八紙に造玄記に対応する分の、各々の条目を記載。

【内題】なし。^④

【本文部分】斐楮交漉紙。紙数三〇。標準一紙長三九・八cm。^⑤切継による顕著な長短がある（最小一・四cm、最大三九・九cm）。紙高二七・〇cm。無辺無界。毎紙行数二〇行内外（標準一紙）。毎行字数不等。字面高さ約二五cm。全巻に訓点あり（返点、振仮名・捨仮名（カタカナ）、音訓合符。墨筆）。僅少の声点、修訂・注記、および読点と思しき横短線あり（墨筆）。^⑥裏書なし。

【尾題・奥書】尾題なし。本文共紙の奥巻に延文五年（一二三六〇）の杲宝書写奥書あり、翻刻参照。続けて別筆にて蔵者記名「頼恵改名憲杲」あり。

【その他】系図線は朱。「海雲記」およびその「金剛界」「胎藏界」語頭に朱丸を打つ（造玄記にはなし）。海

注

雲記対象「第十二教王譯者相違」抹消に伴い、本文中の条数訂正に朱抹あり、翻刻参照。

① 蛇足ながら指摘すると、④以下は海雲記の①、②、③、④、⑭、⑮、⑯に相応する。

② 大正蔵では海雲の金胎両記を合わせて『両部大法相承師資付法記』二巻として収める（五一巻No.二〇八一）。それを見るに、底本とした東寺観智院本の延文六年（一二三六）校合奥書において賢宝も、大和以後に入唐した円仁ら日本僧の名がある点に疑義を呈していることを知る。言うまでもなく賢宝は杲宝の高弟だが、本資料の成立がこの校合奥書の前年であるにもかかわらず、賢宝は本資料を目にしていらないらしい。本資料の奥書に見えるとおり、もっぱら頼恵のために記して与えたものだったためであろうか。

③ 『目録』は、京都府立総合資料館編『東寺観智院金剛藏聖教目録』（京都府教育委員会、一九七五―八六年）を指す。以下の書誌事項には『目録』と相違する計測値などもあるが、報告者の実見・実測したところを提示する。

(4) 『目録』では「海雲記」を内題とするが、これは本資料全体の題署とはいえず、本文初行とすべきものである。その点、見返にある「杲實私記」は書名としては相応しいが、表現が漠然たるのみならず、書名決定の第一典拠を内題に求める立場からすると、いかにも心許ない。ゆえに、後補とはいえ外題を書名として採用した。

(5) 標準一紙長とは筆者が書誌事項の報告をする際に使用している造語である。文字どおり、当該卷子本を構成する料紙一紙の標準的横長を意味する。原則として最頻値(モード)を採るが、継目糊代に伴う誤差の範囲内において複数の最頻値が出るならば、その平均を採る。もともと複数種の料紙が用いられている場合には、それぞれの標準一紙長を記載する。

(6) 読点らしき横短線の初出は、第四紙うしろから五行目「不空」。それ以後、間々見られる。

《翻刻例言》

* 改行、傍記、小字片側寄せ、小字双行などの体裁は原本どおりとする。文字の大小、配置なども、努めて原本の態様を髣髴せしめるよう心掛けた。ただし、字間の空きについては十分には再現していない。

* 用字については以下の方針に従う。

・ J I S 内漢字および『今昔文字鏡 単漢字 10 万字版』(東京、紀伊國屋書店、二〇〇一年)の TrueType フォントを用いて表現可能なものは、原則として原本の字形を活かす。したがって、同じ字の新旧あるいは正俗の混在する場合がある。

・ それ以外の別体字は、右の範囲内に存する最も適当な文字に改め、必要に応じて翻刻注を施す。

・ ごくふつうに使われる別体字は、殊更に原本の字形を出さずに通行字体を用いる(例えば、才↓等、符↓符、弘↓弘、回↓因など)。

- ・ 新旧正俗の字形相違についても、一般的なのは通行字体に統一する（とくに多出するのは、高↓高、將↓將、來↓來、兩↓兩、經↓經など）。
 - ・ 筆法によっては、筆写者がどの字形を書こうとしたのか判然としない場合が少なくない。その際は概ね通行字体を用いる。
 - ・ 原本の字形を残すか、通行字体に置き換えるか、その判断にややゆらぎがある。とはいえ、よほど用字法などの検討に踏み込まぬかぎり、あまり厳格に呻吟することは無意味であろう。なお、その判断基準は、視覚的な違いが顕著（例えば、仏と佛、海と槩など）、あるいは、部首が異なる、など。
 - ・ 少数ながら古体のカタカナを見るが、現行のカタカナに開く。
 - ・ カタカナの合字「ノ」「ㇿ」については、ゴシック体で「シテ」「コト」とした。少々見分けにくいが、諒解を願う。
-
- ・ 引用文の閉じとして「〜といふ」の謂で置かれる小字の「文」についても、ゴシック体で「文」のようにした。聊か不体裁だが、双注などと紛れる箇所があるため、苦肉の処置である。
 - ・ 本資料においても、大と太、小と少など、他の資料でもふつうに見られる異字通用がある。これらについては、翻刻には原本にあるとりの字を出し、一々（ママ）を付けなかった。誤植の識別が困難になるという憾みもあるが、疑わしい場合には報告者に照会されたい（ezk01525@nifty.com）。
 - ・ 返点については、レ点は字間中央、一点・上点は字画左下隅、二・三点は字画左傍中央にあるが、ふつうの位置に付した。音訓合符と返点とが重なる場合、組版があまりに複雑になるため、やや按配してある。量字符号は、原本では「ミ」だが、翻刻では「々」を用いる。
 - ・ 文字の左傍に「×」、右傍に（別の）文字があるのは、

いわゆる見せ消ち（墨筆）をして右傍の字に直して

いる箇所である。稀に（見せ消ちではなく）単なる

注記号（原本では縦短線）の場合がある。右傍記がないのは、当該字の抹消を意味する。抹消符が朱筆の場合は、「※」で示す。

- * 元の字が見えない（読みかねる）墨抹は、字数分の「■」を以って示す。左傍「×」は付さない。

- * 擦消による修訂や、新たな字句を（傍記でなく）重書したものなどは、翻刻注を付して対処する。

- * 血脈系図線は朱線である。なお、朱筆の文字はない。

- * 括弧（ ）内は、報告者の加えた字句である。

- * 毎紙冒頭に紙序を示す。血脈系図において、横線は原本では無論繋がっている。

- * 原本所見に係る翻刻注は全て末尾にまとめた。なおこの点は、組版に $\text{\LaTeX}$ を採用するメリットの一つである（注の管理がすこぶる容易）。

- * その他、一般的な翻刻に準じて解釈されたい。

《付記》

- * 小稿は報告者自身が日本語版 $\text{\LaTeX}2_{\epsilon}$ （角藤亮氏によるいわゆる角藤版 $\text{\LaTeX}2_{\epsilon}$ ）で組版し、大島利雄氏公開の“dvipout for Windows” version 3.11.4によって印刷出力したものを版下として使用した。

- * JIS外漢字を組版するため、『今昔文字鏡 単漢字10万字版』（東京、紀伊國屋書店、二〇〇一年）のTrueTypeフォントを使用した。当該フォントの著作権は株式会社エーアイ・ネットならびに文字鏡研究会にある。

- * 前項のフォントを $\text{\LaTeX}2_{\epsilon}$ 上で使用するに当たり、堀田耕作氏によるフリーウェア $\text{\LaTeX}$ Fontsパッケージを利用した。

- * これらのソフトウェア等を開発・公開された諸氏に心より敬意を表する。

(後補外題)
密教傳來脉譜正訛勘決 杲宝

(見返)
杲寶私記

(見返押紙)
右為賴惠公注之且感當時法器且

存將來弘通之故也伏乞高祖垂照鑑

令成弟子所願給而已

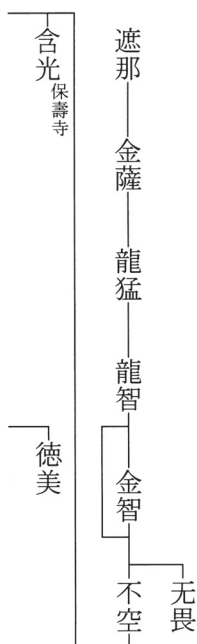
延文五季正月十八日法印權大僧都(杲一花押)

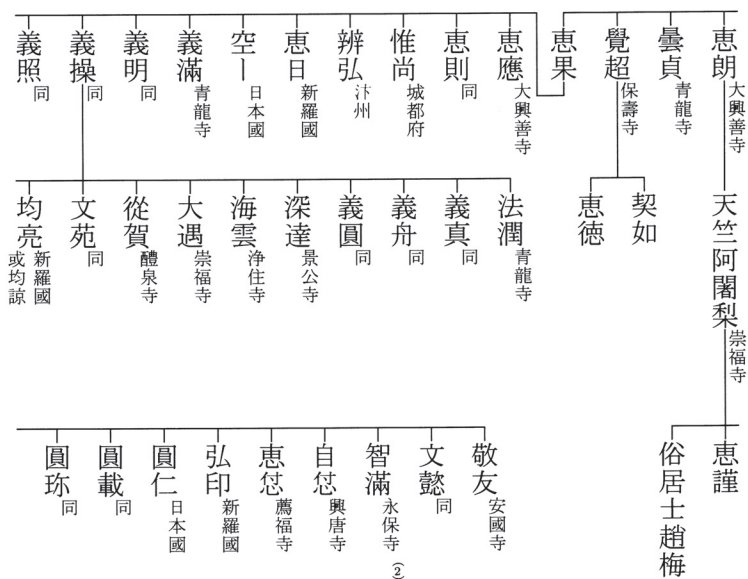
賴惠 改名憲杲

(第1紙)

◎海雲記^①

◎金剛界





(第2紙)

義愍同

義政同

常堅
青龍寺

法全
玄法寺

遍明同
真如親王

弘悦
青龍寺

俗士茂炫
居建武
郭 ③

義
一
龍興寺

「文
秘」
同

俗居士吳殷

批云巨唐大和八年歲在甲寅仲秋月廿日

淨住寺梵字傳教沙門海雲集

◎胎藏界

金智——不空

一行 大興善寺

玄超 保壽寺
惠果 青龍寺

惠果

遮那——金手——掬多——无畏

惠應 大興善寺

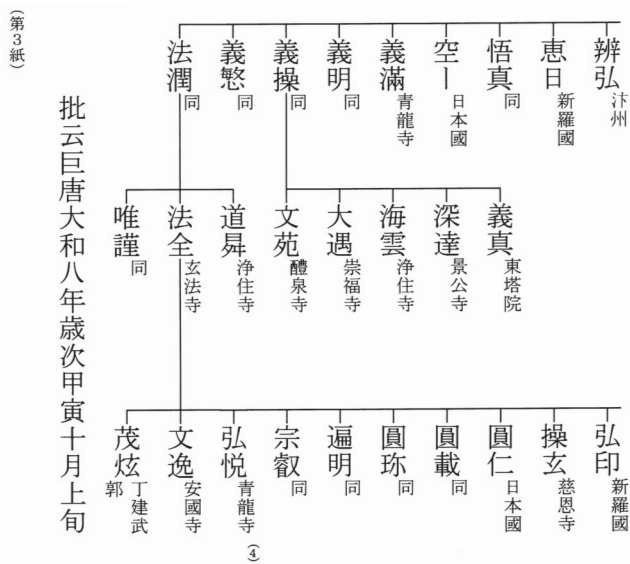
惠則同

惟上或云惟明
成都府

敬友 安國寺

文懿 永壽寺

智滿 永保寺



私云件ノ記者淨住寺ノ海雲阿闍梨撰之ニ慈覺請来之ニ^{云々}彼別錄^{云々}

并ニ安然ノ惣錄ニ載之ニ^{云々}匪啻山門一寺門又依用之ニ智證釋云吳家ノ行

状迷^{ヘリ}血脉^ニ宜^ク依^ニ淨住寺ノ記^{ニ云}然間兩門ノ學徒彼記ヲ為ニ指南一動^{レハ}編^{サミス}^⑤

東寺ノ傳^ヲ為^ニ遮^{セムカ}其僻執^ヲ還^テ挙^ク彼相違^ヲ就中^ニ有^ニ奪^ノ兩門^一若約^{スレハ}

奪門^ニ者此記^ハ是謀書也頗不足會通^ニ其故^ハ金剛界ノ記者大和八年

八月廿日撰^ヌ之ニ胎藏界ノ記者同十月八日記之ニ彼ノ大和八年^ハ當^ル日本ノ承和

元年^ニ而^{ルヲ}慈覺入唐^ハ承和五年^ニ當^ル唐開成三年^ニ智證ノ入唐^ハ仁壽三年^ニ當^ル唐大中七年^ニ自大和八年迄今

年經^ニ宗叡遍明ノ入唐^ハ貞觀四年^ニ當^ル唐感通三年^ニ自大和八年迄今年經廿九年^ニ也大和八年^ニ記^{スル}之書ノ中^ニ^⑥

何^ソ可^キ載^ス後代入唐之慈覺、智證、宗叡、遍明^ヲ一乎謀作無^シ疑^一難^レ及^ヒ是

非^一矣^ニ若約^ハ與^ニ門^一者縱^ヒ雖^{トモ}為^{タリト}雲闍梨ノ記^一自惠果入滅ノ年^ニ永貞迄^{マテ}大和

八年^ニ經^{タリ}三十箇年^一其ノ間展轉錯乱偏^ニ泳^テ派^{ミナマタニ}未^ス酌^{クマ}源^ヲ依^ニ之^ニ謬說多^シ端

且^ク勘^{フルニ}之^ヲ有^ニ甘箇條^一而已

第一金界妙吉相違

第二胎闕二祖相違

第三金闕掬多相違

第四金掬師資相違

第五大師祖承相違

第六慈覺相承相違

第七金智種姓相違

第八無畏先祖相違

第九無畏來年相違

第十大經譯時相違

第十一大經頌數相違

第十二教王譯者相違

第十二義訣作者相違

第十四引文妄設相違

第十五二佛同躰相違

第十六不空付法相違

(第4紙)

第十七惠果付法相違

第十八互為師資相違

第十八再天年紀相違

第十九再天一界相違

第二十護摩說處相違

第一金界妙吉相違

金剛界記云從毗盧遮那如來、在世^一以此、金剛界最上乘、法^ヲ付属^ス普

賢金剛薩埵^ニ普賢薩埵付^ス妙吉祥并^ニ々々々々々ノ後經^テ十二代^ヲ以法^ヲ付属^ス龍

猛菩薩^ニ文^一

私云真言一家血脉相承以テ出生義不空 不空ノ影ノ讚嚴郢述表製 嚴郢述表製 同碑文 同碑文^⑨

嚴郢述表製 集 第六出之 同行狀趙遷 等一ヲ為本據ト是等ノ文皆金剛薩埵直ニ授ク龍

猛菩薩ニ於テ其ノ中間ニ更不列ネ妙吉ヲ雲ノ記ニ所載スル其ノ證在ル何ニ乎ヤ已ニ違シ

本文ニ又失フ所據一謬說之甚キ何事カ如シ之ニ但海雲ノ記ニ有異本一欽寺門

相傳之本者不加文殊ヲ山門相傳之本者加フ文殊ヲ何ヲ以テ知ト云者智證ノ

些々疑問ニ云淨住ノ雲闍梨ノ金剛界師資記ニ云大日ノ在世ニ以此法一付ス普賢ニ

々々付ス龍猛ニ云ハ云普賢金剛付スト云妙祥此ニ出タル何ノ典ニカ文是不加文殊之證也安

然ノ菩提心義第一云海雲阿闍梨ノ金剛界相承ニ云ク大日如来付金剛手一々

々々付妙吉祥一々々々付龍樹ニ取意依ルニ此ノ誠文ニ知ヌ龍樹承妙吉祥云々^⑩

是加文殊之證也今且就テ山門相傳之本ニ所加フル疑難一也彼出生義ノ文如シ載ル左ニ矣

表製集第四嚴郢述不空 影讚云和上ノ諱不空ニ聖上尊ニ之ヲ曰大廣智ニ藏一^⑪

故ニ南天竺ノ阿闍梨金剛智之法化也一昔毗盧遮那佛以瑜伽无上秘

密最上大乘教ヲ傳於金剛薩埵ニ々々々々數百歲アテ方ニ得テ龍猛苦^⑫

薩一而傳授焉ニ龍猛又數百歲アテ乃傳龍智阿闍梨ニ龍智又數百歲アテ

傳金剛智阿闍梨^ニ金剛智振^{セキヤ}錫^ヲ東來^{シテ}傳^ニ於和上^ニ自法身如來^一至^{マテ}

(第5紙)

于和上^ニ傳此道^一者六人^ニ而已^〇而^モ作^{レテ}讚曰 瑜伽上乘 秘密之門

度^{シテ}諸^ヲ禪定^ヲ頓^ニ入佛身^一 法化^ノ正嫡^ニ迄^{イタルマデ}今^ニ六人^一文

同第六^ニ同述不空^{碑文序}云昔金剛薩埵親^リ於毗盧遮那佛^ノ前^ニ受^ク瑜伽最上

乘^ノ義^ヲ後數百歲^{アテ}傳於龍猛菩薩^ニ龍猛又數百歲^{アテ}傳龍智阿闍

梨^ニ龍智傳金剛智阿闍梨^ニ金剛智東來^{シテ}傳於和上^一々々又西^ノカク遊^テ天

竺師子等^ノ國^ニ詣^{シテ}龍智阿闍梨^ニ揚擢^ス十八會^ノ法^ヲ々々化相承^{シテ}自毗盧遮那

如來^一 貽^{イタルマデ}於和上^ニ凡六葉^一矣^文

不空行狀^{趙遷述}云昔者^シ婆伽梵毗盧遮那以金剛頂瑜伽秘密真言法

印^一付屬^ス金剛手菩薩^ニ垂^一近千載^ニ傳龍猛菩薩^ニ數百年後^ニ龍猛^〇

傳龍智阿遮梨耶^ニ後數百年^ニ龍智傳金剛智阿遮梨耶^ニ金剛智傳

今之大師^ニ文

出生義云自佛已^{コノ}降^カ送^カ相付屬^ス尺師子得於毗盧舍那如來^ノ方授^ヲ而

誓約^{シテ}傳金剛薩埵^ニ々々々々得^テ之數百季^{アテ}傳龍猛菩薩^ニ々々々々受^{レテ}之又

數百季^{アテ}傳龍智阿闍梨^ニ又住持數百季^{アテ}傳金剛智阿闍梨^ニ々々々々々々

以悲願^ニ方^ニ將^三流^ニ演^{セント}於中國^ニ挈^{ヒサケヘイヲ}瓶^{ツエツイテ}杖^{セキヲ}錫開元七載^ニ至^ニ自^ニ上京^ニ十四^⑬

載^ニ遂^ニ得^ニ其人^ヲ複以誓約^{シテ}傳^ニ不空金剛阿闍梨^ニ然^モ其^ノ枝條付囑^ハ頗^ル

有^{レトモ}其人^一若家崎相承^ニ唯此^レ而已^ニ文

初學記云釋名^ニ云山ノ頂ヲ
曰冢^{テウ}。銳^{スルトニシテ}而^ニ高^{キヲ}曰崎^{ケウ}ト文

第二胎闕二祖相違

胎藏界記云三藏善无畏^ノ云^ク此^ノ法^ハ從毘盧遮那佛^一付囑^ス金剛手菩薩^一々々

經數百年^{ヘテ}傳^ニ付中印度那爛陀寺^ノ達磨掬多^ニ々々次^テ付^ニ中印度國^ノ三^⑭

(第6紙)

藏釋迦ノ善無畏^ニ文

私云依^ニ此^ノ文^ニ胎藏之列祖^ニ闕^ニ龍猛龍智^ノ二師^ヲ此傳大^ニ違^ス本文^ニ貞元

錄第十四云至三十二往南天竺^一於^テ龍樹菩薩^ノ弟子^ヲ名龍智^ト年七百歲^{ニシテ}

今猶現在^{スルニ}經^テ七年^一承事供養^{シテ}受^ニ學^ス金剛頂瑜伽經及毗盧遮那惣
 持陀羅尼法門^一文^ニ此文明^ニ龍智受^テ兩部^ヲ於龍樹^ニ授^{クト}金剛智^ニ見^{タリ}又前^ニ
 引^ク表製集ノ第四第六^ニ舉^{トシテ}秘宗ノ相承^ヲ龍猛^ヲ為^シ第三ノ祖^ト龍智^ヲ為^ス第四ノ
 祖^ト兩部ノ稟承以之^ヲ為明據ト何^ニ況^ヤ菩提心論者龍樹ノ所造密藏肝心之
 論也彼ノ中^ニ五箇所^ニ引^ク大日經ノ文^ヲ龍樹ノ相傳誰^カ謂^{ハシ}不^レ然乎又不空
 再天之時遇^テ龍智^ニ傳^フ兩部^ヲ飛錫^カ碑文趙遷^カ行狀等數箇ノ文證如
 下^ニ引^ク爰^ニ勘見^ニ高祖處々之尺^ヲ龍猛龍智並通兩部^ニ吾祖忝為^{トシテ}
 青龍瀉瓶之嫡資^ト箸記^ス其ノ直說^ヲ縱雖^{フトモ}無^ト本文^一誰ノ人^カ貽^{セン}疑^一而^ヲ祖^①
 釋幸^ニ合^ス本說^ニ不可不^{ハアル}信^一雲ノ記^ニ所載^{スル}已^ニ違^ス本文^一豈^ニ非謬說^ニ乎
 (第7紙)
 抑義操ノ弟子^ニ有義真^一有海雲^一如^{キハ}義真受^{ケテ}義操^ニ授^{クル}円行^ニ之付法次
 第^上兩部一流之相傳也所謂大日金薩龍猛龍智金智不空惠果
 義操義真円行^{云々}其文在円行請^{来ノ録ニ}如下^ニ引^カ量知^ヌ祖承不一統^セ兩部^ニ有^{ルハ}加減^一者
 全^ク非義操之說^ニ只是雲公之謬也

(第8紙)

問彼記ニ所載スル一非海雲ノ私語ニ正ク挙ク三藏善无畏ノ説ヲ何ソ轍ク可云謬説ト

乎次ニ至表製集ノ文ニ者出金剛界ノ相承ヲ欤何ソ必為兩部ノ相承ト依之

傳教ノ内證血脉譜ニ金剛界師資相承ノ段ニ引ク彼第六ノ文ヲ尔者非ル相違ニ

欤如何

答先彼記ニ舉クト善无畏ノ説一者是則海雲智臆ノ浮説也彼三藏ノ製作

并ニ翻譯ノ経軌等ノ中ニ敢無此ノ語ハ不^足可^信ス縦ヒ雖無ト明據一海雲若

謁^{シテ}無畏ニ親リ聞^{カハ}其ノ口説一猶以可^信伏^ス自^ニ無畏入滅之年^{開元廿三年}至マテ于大

和八年^ニ已^ニ經^{タリ}九十八年^ヲ以展轉之説^ヲ載^ス無窮之語^ヲ謬説之起^リ職^{トシテ}而由

斯欤縦ヒ雖^{トモ}不^ト受直説^ヲ若冥會^{セハ}本文^ニ者誠以可^信取^ヲ已^ニ違^ス本説^ニ誰^カ

可依用之^一乎次ニ表製集[■]示^ト金剛一界相承^ヲ者是又無^シ其謂^一彼文^ハ¹⁸

(第9紙)

記スル不空ノ德行^之讀序并ニ碑文也彼三藏廣学ス兩部^ヲ何ソ偏^ニ挙^{ケン}一界ノ受

學^ヲ乎今且察^{スルニ}其ノ理^ヲ有^二意^一^{ニハ}以本^ヲ推^レ末^ヲ大日ノ所授^{クル}金薩^ニ已^ニ通^ス兩¹⁹

部^ニ金薩所傳龍猛^ニ豈屈^{セン}一界^ニ乎^一^{ニハ}以末^ヲ推^ス本^ヲ龍智ノ所授^金

智^ニ又^ハ亘^ル二界^ニ龍猛ノ所傳龍智^ニ何不^{ラン}通胎藏^ニ乎表製集者大師獨
傳^テ惠果^ニ請來^之一付法傳等ノ中^ニ引^テ此文^ヲ為^ス兩部相承之證^ト傳教^{②①}
詔^ヒ得^テ大師請來之本^ヲ不得文ノ意^ヲ任^テ自執^ヲ為^レ金剛ノ相承^ト還^テ而可咲^{②①}
之^ヲ敢^テ勿備^{コト}疑難^ニ矣

第三金闕掬多相違

私云雲ノ記^ニ所列^ニ金界ノ祖^ニ闕^ス掬多^ヲ是又違^ス本傳^ニ般若三藏ノ翻經圖
記云法師從那爛陀寺^一至^ニ南印度^ニ依^テ達磨枳栗底^{キリテ唐ニハ云}法稱^ト大灌頂阿
闍梨^{ニ本ハ師子國ノ王子}入^リ曼荼羅^ニ受瑜伽五部ノ契印三密護身金剛頂
等^ヲ誦^ニ滿^シ三千五百偈^一住^{スルコト}經^テ一年^一東ノカタ^ニ赴^テ大唐^ニ誓^テ願^ニ弘^ク佛法^{ヲ文}
促^也貞元錄第十七^{般若三藏段}云法師梵^{ニハ}名^ハ般刺若^{ト唐ニハ言}聞^テ南天^ニ尚^ニ持明^{トフルコトヲ}
藏^一遂^{シテ}使^ハ往^リ詣^{シテ}諮^ス一稟^タ未^ダ聞^一有灌頂師^一厥^ヲ名法^一稱^ト授^リ瑜伽教^ヲ入^リ此^ニ曼^{②③}
荼羅^ニ三密護身五部ノ契印^{ヲモテス}如^ハ一承奉^{シテ}住^{スルコト}經^テ一季^一諷^ニ滿^ス三千五
百餘偈^{ヲ文}掬多^已為^{シテ}金界ノ法匠^ト熾^ニ傳^リ燈於南天^ニ振^フ芳名於東
漢^一專^ラ可^ス為^ス金界ノ祖^ト不^ル列^セ之^又是^ハ謬^ニ之^至也^{レル}

尋云或カ云龍智掬多同人ト云々尔者金界ニ列ネ龍智ヲ胎界ニ列スル掬多一ヲ自ラ合ス²³

本文ニ何ノ為相違ト乎

答印度隔ハ堺ヲ同異難知一若ハ同若ハ異共ニ以テ有難一其故ハ雲ノ記ニ載金²⁴

剛智ノ語ハ云ク昔於南天竺國一聞有コトヲ大毗盧遮那胎藏ノ名一遂ニ遊五天ニ訪求スルニ²⁵

(第10紙)

都テ无解スル者一今至大唐喜遇コトヲ此法ニ文然間於テ唐朝一金智受ケ胎藏於無畏ニ

々々受ケ金剛於金智ニ互ニ為ナテ師資ト傳受ニ一本大教云々若尔者雲ノ記ノ意胎ニ

不ル列龍智一者不知胎藏之故也金ニ不列セ掬多一者不知金剛一之故也若知ラ

之一者金智為シテ龍智ノ弟子ト何云ハン都無解者ト無畏為シテ掬多ノ弟子ト豈不シ受

金剛ニ乎而ルヲ至テハ如キニ龍智授ケ兩部ヲ於金智不空ニ掬多授ニ兩部於無畏般

若一若ハ同人ニモアレ若ハ別人ニモアレ兩部兼學明證指ス掌一是故ニ招クニ二箇ノ胎闕龍智金闕掬多相違一

者也

尋云龍掬ノ同異因ミ示セ之

答古來有兩說一別傳ノ儀軌^{神軫}述云中天竺ノ達磨掬多阿闍梨八百歲南

天竺國ノ龍智阿闍梨三百餘歲新羅國ノ義林阿闍梨ノ二百五歲此等ノ

真言行者ハ住スルカ此五普賢延命ノ三摩地ニ故ニ現身ニ得長遠ノ壽命文

是ハ為別人ト之證也海雲ノ記ニ無分明ノ尺一但依テ都無解者ノ文ニ察スルニ記者ノ

意ヲ為別人ト欤今案ニ之一定可同人一略有七ノ所由ニハ龍猛ノ弟子同故ニ以

龍智ヲ為龍猛ノ弟子ト頗不待語一以次以掬多一為龍猛ノ弟子ト者如第四ノ

篇注一ニハ善无畏ノ師同故ニ无畏碑文撰李花云那爛陀寺ハ像法之泉源

衆聖之都會也。僧實ニ有達磨掬多一唐ニハ云法護ト掌リ定門之秘鑰一

佩タリ如來之密印一顏如クシテ四十一ハカリノ已ニ八百歲也乃頭ヲモテ礼両足一ヲ奉ル為ニ本師ト文

大宋高僧傳第二同之一如第四ノ篇ニ引一略付法傳ニ釋シテ善无畏三藏一ニ云ク

龍智菩薩弟子金剛三藏之同門也云々ニハ玄奘ノ所謁一同故ニ付法傳上

云玄奘三藏行狀云南天竺磔迦國菴羅林ノ中ニ有一ノ長命ノ婆羅門一季²⁸

七百餘歲觀ニ其ノ面兒ヲ稱シツ卅許ト明ニ中百論等一々ハ是龍猛菩薩ノ弟

子ナリ法師就停^テ學ニ中百論等一及ヒ受諸經等一以此觀ルニ之ニ玄奘三藏亦文
教時義

(第11紙)

第三云龍智在世三百歲ノ間玄奘詣^レ彼^ニ先^ツ學^ス三論宗^ヲ其時龍智齡如

三十歲^一出^{タリ}玄奘ノ別章^ニ玄奘歸^テ後龍智猶存^{シテ}傳金剛智^ニ文^一而^ル僧傳^ニ指^{シテ}

掬多^ヲ云^フ玄奘三藏昔曾見^一之^一彼此校勘^{スル}龍掬同人可謂^ツ勿論^一四^ニ般若

所示^一同^{ナルカ}故^ニ付法傳上云貧道大唐貞元廿二季於^テ長安醴泉寺^一聞^ク般

若三藏及牟尼室利三藏南天ノ波羅門等ノ說^一是^ニ龍智阿闍梨今見^ニ

在^ニ南天竺^ニ傳^ト授^{スト}秘密ノ法^ヲ云^々文^一而^ル依^ル般若三藏ノ翻經圖記并^ニ貞元ノ

錄ノ第七^ニ如前^ニ般若三藏於醴泉寺^ニ所^ノ示^ニ高祖大師^ニ龍智阿闍梨^ト者

即是達磨枳栗底也五^ニ所住ノ國界同^{ナルカ}故^ニ前^ニ引^ク圖記^ニ法稱本^ハ師子國ノ

王子^云表製集ノ第四云達^{スル}師子國^ニ有^ト普賢阿闍梨^ト者^一云^々普賢阿闍

異名也又付法傳^ニ釋^{シテ}龍智^ヲ云遊師子國^一勸接^ス有緣^ヲ云^々王子ノ由緒^ヲ似^{タリ}云^ニ有

緣^一六^ニ長壽不老ノ故^ニ高僧傳并^ニ李花^カ碑文^ニ尺^{シテ}掬多^ヲ云^フ八百歲^一御

請来ノ錄云龍智和尚八百不老^云彼此全同可思^一七^ニ呼^テ龍智^ヲ号^{スルカ}法將^ト

故^ニ謂^ク瑜祇經^ニ譯者加^テ注^ヲ語^一云法將阿闍梨^ト心覺ノ雜抄云瑜祇經^ハ金剛

智ノ譯也而^ヲ不空遇^テ龍智^ニ受^テ法^ヲ之後重^テ再說^{スル}也法將阿闍梨^ト者龍智也

云々法將^ト者梵^{ニハ}云達磨枳栗底^ト出^ニ三藏記^ニ僧祐^撰云達磨尸梨帝羅漢

第三十三^{譯曰云}法將^々枳字^ニ有機尸ノ二音^一是故^ニ尸梨帝枳栗底只是一

梵語也然^{レハ}則雲闍梨於^テ同人^ニ作^也別鉢之想^ヲ云^フ五天訪求都無解者^ト

(第12紙)

頗足^{レリ}可^ニ咲矣

尋云依^ニ海雲記并^ニ別傳ノ軌^ニ掬多^ハ中天龍智^ハ南天又僧傳并碑文^{ニハ}掬

多八百歲^{ト云}慈恩傳同行狀^{ニハ}玄奘ノ所ノ謁^{セシ}長命ノ波羅門七百歲^{ト云}々別

傳ノ軌并教時義^{ニハ}龍智三百歲^云々彼此不同何^ヲ為^{スル}同人^ト乎

答先會^{セハ}住處相違^ヲ一者付法傳^ニ尺^{シテ}龍智^ヲ云德被^{シメ}五天^ニ名薰^ス十方^ニ上天^ニ

入^テ地^ニ無導自在^{ナリ}文隨^テ濟渡^度之緣^ニ或^ハ住^シ中天^ニ或住^{セン}南天^ニ何^ソ必^{シモ}為^{セン}恠^ト乎

隨而如^{キハ}圖記并^ニ貞錄ノ者南天竺^ヲ為掬多ノ住處^ト豈非全同之證^ニ乎

次^ニ至壽限ノ相違^ニ者玄奘ノ謁^{セシ}時^ハ前也其時七百餘歲^{在玄奘ノ行狀}隨^{ヘテ}滿數^ニ

慈恩傳^{ニハ}云七百歲^ト無畏謁^{セシ}時^ハ後也其時年及^リ八百^ニ也依謁者ノ前後^ニ所

録スル不同也但別傳軌并ニ教時義ニ三百歲ト者未見其ノ本說一末師ノ浮說不足會通ニ矣

第四金掬師資相違

私云雲ノ記ニ所列スル金剛薩埵直ニ付ス達磨掬多ニ本說在ル何一乎勘フルニ

諸ノ傳錄一未見其ノ文一海雲ノ臆說不足指南ニ慈恩傳第二云明日到ル磔

迦國ノ東境ニ至ル一ノ大城ニ々々ノ西道ノ北ニ有大菴羅林一々々中ニ有ニ一ノ七百歲ノ波羅門一

及レ至ニ觀ル之一可一三十許ナル形クハ質コ魁ニ枯ニ神ア理ン淹ナ審リ明ニ中百ノ諸論ニ善ニ吠ヘイ

陀等ノ書ニ有ニ二リ侍者一各百餘歲法師与ニ相ヒ見テ延レ納レ甚タ歡フ○仍チ就停スルコト一月

學ス經ニ百論一廣百論一其ノ人ハ是レ龍猛ノ弟子ナリ親リ得テ師承一說コト甚明一淨ナリ文ナリ大

宋高僧傳第二善无云那爛陀寺此ニハ云施无厭ト○寺ニ有達磨掬多ト云ヒト者一掌ツカサトリ二

定門ノ之秘鑰ヲ佩リ如來ノ之密印ヲ顏カワ如シ四十許ハカリ其レ實ニハ八百歲也玄奘三藏

昔ムカシ曾見之一畏ナケ投身一接シテ足ヲ奉シテ為ト師一文一文勘スル合ニ玄奘ノ所ノ謁一長命ノ波

(第13紙)

羅門ト者即是達磨掬多也其人即龍樹猛ノ弟子云々雲ノ記已ニ違ス之一豈

非謬說乎

第五大師祖承相違

金剛界記云三藏和尚又以法一傳ニ付。青龍寺東塔院惠果阿闍梨一ニ

々々々付ニ。日本國ノ空一阿闍梨ニ文

胎藏界記云沙門玄超阿闍梨付ニ青龍寺東塔院惠果阿闍梨一

惠果阿闍梨又傳付ニ。日本國空一ニ文

私云高祖々承ノ次第大日金薩龍猛龍智金智不空惠果大師嫡々

相傳^{シテ}更不雜^ヘ異傳^ヲ其旨廣略ノ付法傳十住心論御遺告請来ノ²⁸

録性靈集處々ノ文皆以一一致而^ヲ如^キ雲ノ記ノ者金剛ハ金智不空惠果大師

胎藏^ハ無畏玄超惠果大師^{云々}所受^ニ惠果ニ雖無^ト相違一其源違^ス高祖

之傳ニ海雲^ハ義操^ノ弟子義操雖列^{スト}和尚之門葉^ニ未入傳燈六人之²⁹

内^ニ自大師歸朝年^{元和}迄^{マテ}大和八年^ニ經^{タリ}廿九年^ヲ只聞^テ傳說^ヲ不聞正說^ヲ展

轉之誤^リ推而可知^ヌ非^ス蛇^ニ者不知蛇ノ足^一不^シ受高祖之傳^ヲ者争^カ可辨^フ其

本末^一乎於自餘之篇^ニ者且閣之^ヲ於大師之傳^ニ者可本^ニ大師ノ尺^ヲ雲ノ

記已^ニ違之^ニ謬說勿論也

問青龍ノ和尚隨^テ不空^ニ受^ト兩部^ヲ者其ノ本據如何

答付法傳下^ニ引^ニ惠果ノ表ノ文^ヲ文^ヲ謝^ス代宗恩^ヲ賜^{スル}云聚砂之歲^シ則事^ニ先師^ニ廿

餘年執^ニ侍巾錫^ヲ瑜伽秘密之宗大悲胎藏之要特^ニ蒙^ニ教^ヲ誨^ヲ偏^ニ

承意旨^ヲ文^ヲ聚砂之歲^ト者^ハ惠果行狀^ニ具^ル殷^ニ云大師法ノ諱ハ惠果俗姓ハ馬

氏京兆昭應ノ人也故^ニ大興善寺大廣智不空三藏之法化也○登^テ

金剛頂^ニ超^ヘ須弥盧^ヲ入^テ法界宮^ニ開^ク大悲藏^ヲ文^ヲ御請來錄云和尚告^テ

(第14紙)

曰吾^レ昔^シ髻齒^ノ之^ニ時初^テ見^ニ三藏^ニ々々^一目之後偏^ニ憐^ムコト如^レ子ノ入^ニ内^ニ歸^ルニ寺^ニ

如^レクシテ影ノ不^レ離^レ竊^ニ告^テ之曰汝^チ有密教之器^ニ努力々々兩部ノ大法秘密印

契因^テ是^ニ學^ヒ得^{タリ}矣自餘ノ弟子若^ハ道若^ハ俗或^ハ學^シ一部ノ大法^ヲ或^ハ得^ニ一尊

一契^ヲ不^レ得^ニ兼^一貫^{スル}コトヲ欲^{スル}ニ報^{セント}岳瀆^ヲ昊天罔^{ナシ}極^{マリ}文^ヲ付法傳下^ニ惠果^ニ云金剛

頂五部大漫荼羅ノ法及^ヒ大悲胎藏三密ノ法門真言密契悉^ク蒙^ル師

授^ヲ即^チ授^{ラル}兩部大法ノ阿闍梨位毗盧遮那根本最極傳法密印^ヲ三

藏告^テ曰^ク吾^カ百年ノ後^ニ汝^チ持^シ此^ニ両部ノ大法ヲ護^シ持^シ佛法ヲ擁護^シ國家ヲ利
樂^{セヨ}有情^一此ノ大法者五天竺國^ニ太^タ難^シ得^レ見^{コト}一尊一部不易カラ得^ルコト何^ニ
況^ヤ両部^一乎所有ノ弟子其ノ数雖多^一或^ハ得一尊^一或^ハ得一部^一ヲ啓^テ汝^カ聡
利精勤^一許^スニ以^テス 両部^一努力精進^{シテ}報^{セヨ}吾^カ恩^一也^文 又云又訶陵國ノ僧辨
弘在^シ本國^ニ日誦持^シ如意輪ノ瑜伽^ヲ稍得^ヤ法力^一ヲ忽^ニ聞^テ大毗盧遮那大悲胎
藏大漫荼羅ノ法在^ニ南天竺^ニ切^キ慕^テ受學^一即向^フ南天竺^ニ路ノ中^ニ忽^ニ遇^フ一
人^一問^テ曰^ク公何^レ處^ニ去^ル答^{曰ク}聞^キ導^サ南天竺^ニ有^リ胎藏ノ大法^一心^ニ慕^テ受學^一所
以^ニ裝束^{シテ}取^ル路^一彼^ノ人^ト報^{シテ}云^ク彼ノ法者不空金剛阿闍梨將^{サテ}去^{サテ}傳^フ大唐
國^一彼ノ弟子惠果阿闍梨今見^ニ在^ニ長安青龍寺^ニ傳授^ス若^シ往^シ彼ノ所^ニ必^ス合^{ヘシ}
受^ク不然^一者難^シ得^一言^一畢^テ不^レ見^ヘ即^チ知^ヌ神^一人^{ナリト云コトヲ}更^ニ却^テ向^フ大唐^ニ遂^ニ詣^{シテ}青
龍寺^ニ奉^レ遇^フ和尚^ニ委^ク陳^ス來意^一文 本據粗如此^一皆以不自由^{ナラ}誰^{人カ}可疑^之
乎

第六慈覺相承相違

私云雲ノ記^ニ所列^一金剛^ハ惠果義操法全円仁胎藏^ハ惠果法潤法全円仁^{云々}

此條尤不審慈覺金剛界ノ傳法灌頂^{ヲハ}受^ケ元政^ニ胎藏界ノ傳法灌頂^{ヲハ}受^ケ
造玄記并智證圖皆以如此何況
 法全^ニ嘉祥元年六月十五日官符^{貞觀格}云円仁去承和五年^ニ涉^レ海入唐
第六載之
 遇^{ニテ}不空三藏第三ノ弟子全雅阿闍梨^ニ受^{下ク}金剛界大法經論章疏等一

(第15紙)

百九十八卷并^ニ胎藏金剛兩部大曼荼羅及諸尊ノ壇樣高僧ノ真影

及舍利等二十一種^{上ヲ}又於^{ニテ}宗叡法師ノ邊^ニ學^ス悉曇章^ヲ開成五年到^{ニリ}五臺

山^ニ巡^ニ礼五峯^ヲ寄^ニ住^ス大華嚴寺涅槃院^ニ經^{レテ}夏^ヲ於^ニ天台大師第七ノ弟子

志遠和尚ノ邊^ニ稟^ニ三觀之旨^ヲ瀉^{シテ}得^{タリ}天台教迹等三十七卷^ヲ同年十月

始^テ於大興善寺勅翻經院ノ不空三藏第三ノ弟子元政^{セイ}阿闍梨ノ邊^ニ受^ケ
32

灌頂^一學^ニ金剛界大法并諸尊法^ヲ至^{ニテ}會昌元年^ニ受^ク傳法灌頂^ヲ其

年五月於^ニ青龍寺勅置本命灌頂道場不空三藏ノ弟子義真阿

闍梨ノ邊^ニ受^ニ灌頂^ヲ受^ニ大毗盧遮那經ノ秘旨及蘓悉地大法^ヲ從^ニ會昌

二年二月於^ニ善无畏三藏第四ノ弟子玄法寺ノ法全阿闍梨ノ所^ニ入^ニ灌頂

壇^ニ受^ニ胎藏大法并諸尊法^ヲ至^ニ三年三月^ニ受^ニ傳法灌頂^ヲ其ノ後於^ニ

青龍寺南天竺ノ三藏寶月ノ邊ニ重テ習ニ悉曇ヲ凡住ニスルコト長安ニ六年之間
求ニ得念誦教法經論章疏等五百五十九卷胎藏金剛界兩部大曼荼
羅及諸尊ノ曼荼羅壇像并道具等二十一種一又於天台大師第八
弟子右街體泉寺僧宗顥所ニ研習止觀之微旨一云々慈覺傳同之一

凡覺大師於唐朝ニ遇八箇ノ闍梨ニ學ス密法ヲ八箇ノ闍梨ト者安然ノ胎
藏ノ對受記第一云慈覺大師於ニ法全義真全雅元侶元政海雲宗

叡寶月ノ八阿闍梨ニ廣ク學ニ奧藏一故ニ所傳ノ中ニ多有異說一云々八人ノ之

内随テ元侶宗叡寶月ニ傳ヘ悉曇ニ隨テ餘ノ五人ニ受真言一就テ中ニ全雅ニハ受ク

金剛界ノ大法學法灌頂ノ有
无可尋ニ決之義真ニハ受ケテ胎藏學法灌頂ヲ傳大日經ノ秘旨并ニ

蘊悉地ノ大法ヲ元政ニハ初ニ受テ金剛界學法灌頂ヲ學シ彼大法ヲ後ニ受ク同

傳法灌頂一法全ニハ初ニ受ケテ胎藏界學法灌頂ヲ學シ彼大法ヲ後ニ受ク同傳

法灌頂一海雲ノ傳未詳一可尋決ス之然則五家之内以ニ元政法全之二師一

(第16紙)

為金胎傳法之源本ト未見下隨ニ法全ニ受ト云金剛界一之誠文ヲ為之如何

第七金智種姓相違

金剛界記云金剛智三藏阿闍梨。南天竺國王ノ第三子^{ミコナリ}文

私云金智ノ俗姓ニ有兩說一^{ニハ}南天竺波羅門種開元錄第九云南印度

摩賴耶國人。波羅門種^文 大宋高僧傳同之^{二ニハ}中天ノ刹利王ノ第三ノ

子也貞元錄第十四云金剛三藏者中天竺國ノ刹利王伊舍那^{シヤナハツマ}摩第

三ノ子^{ナリ}以開元七年^一南天竺國^{ヨリ}因^テ節使將軍米准那^ニ表薦^{セム}入^一朝遂^ニ

稱^ス南天竺ノ人^ト焉^文 而^ル記^ニ云南天竺王第三ノ子^ト違^ス此ノ兩說^ニ是故^ニ為^{スル}

誤^ト也

第八無畏先祖相違

胎藏界記云中印度國三藏釋迦ノ善无畏。斛飯王五十二代孫^文

私云慈氏軌^{無畏}誤^説 云中天ノ三藏善无畏甘露飯王釋ノ苗胤五十五ノ孫

十三^{ニシテ}臨^ス文 無畏碑文序^{李華}撰 云蓋^シ尺迦如来ノ季父甘露飯王之

後^文 大宋高僧傳同之^一而^ル斛飯王ノ孫^ト者違^ス是等ノ文^ニ謬之甚也

智論第三云昔^シ有^二日種王^一名^二師子頰^ト其ノ王^ニ有^二四ノ子^一其ノ第一^ヲ名^二淨

飯^ニ一^ト二^ニ名^ニ白飯^一三^ニ名^ニ斛飯^一四^ニ名^ニ甘露飯^一有^リ一^リノ女^一名^ニ甘露味^一淨飯王^ニ有^ニ二子^一佛^一難陀^{トナリ}白飯王^ニ有^ニ二子^一跋提^{トナリ}々沙^{トナリ}斛飯王^ニ有^ニ二子^一提婆達多^ト阿難^{トナリ}甘露飯王^ニ有^ニ二子^一摩訶男^ト阿泥盧豆^{トナリ}甘露味女^ニ有^ニ一子^一一名^ニ施婆羅^{ト文}斛飯甘露兄弟相濫之失可思之^一

第九無畏來年相違

同記云開元七年^ニ從西國^一將^{モテ}大毗盧遮那ノ梵夾ノ經等^ヲ來至此國^{ニ文} 34

(第17紙)

私云貞元錄第十四云開元四年景辰大^ニ賁^{モテ}梵夾^一來達長安^{ニ文}

開元錄第九^撰并續古今譯經圖記同撰同之一大宋高僧傳第二

贊寧^{ヒノヘ}云丙辰賁梵夾^{モテ}始^{イタル}届^ニ長安^{ニ文}而^{ルヲ}開元七年^ト者謬之至也

第十大經譯時相違

同記云開元七年釋迦沙門三藏善无畏奉 詔譯沙門一行筆授^文

私云貞元錄第十四云大毗盧遮那成佛^神變加時經七卷^{第七ノ一卷ハ是念誦ノ法ナリ}開元十二年於東都

大福光寺譯^文又云至十二年^一隨^{レテ}駕^ニ入洛^ニ於大福光寺^一安置^一遂^ニ為^ニ沙門一行^一譯^ス

大毗盧遮那經^ラ文 開元錄第九續古今譯經圖記同之^ニ然則前文ハ云^ヒ
十三年^ト後ノ文ハ云フ十二年^ト似^{タリ}相違^ニ會之^一有二ノ義^一一^{ニハ}前六卷ハ開元十二年^ニ
譯^シ第七ノ一卷ハ十三年^ニ譯^ス之^一二^{ニハ}十二年ハ入洛之年十三年ハ翻譯之年也^云
而^ル云フ七年之翻譯^ト已^ニ違^ス諸文^ニ謬說難^ノ遁矣^レ

第十一大經頌數相違

同記云梵經ノ畧本四千偈ノ經^{ナリ}更^ニ有略本^一二千五百偈中天竺國ノ大阿闍
梨ノ集^{ナリ}今時ノ所傳^ハ者四千偈ノ經^{ナリ}文

私云大日經ノ頌數以疏^一可為指南^ト疏第一云傳法聖者採其宗要凡三
千餘頌^文三千餘頌隨^{ヘテ}滿數^ニ可云三千頌^{トハ}大日經開題^ノ不可云^ニ四千頌^{トハ}智³⁵
度論云小過小減皆存大數^云三千餘頌^ト者顯^{ハス}小過^ヲ之言^ハ也以^若約^ニ大數^一
^者可^シ云三千頌^ハ大日經開題^ノ頌又三千^云
難稱^ニ四千^ノ爾者四千頌^ノ本據在^ル何^一乎又二千五百偈^云未見^ニ其本^一
文^ヲ是又雲^カ臆說也

(第18紙)

第十二義訣作者相違

同記云沙門一行。造金剛頂ノ訣三卷^{上卷有本餘、}

^二兩卷闕本文

私云義訣者釋^ス六卷ノ略出經^ヲ此^ハ是金剛智ノ說不空ノ記也梵網經開題

云大廣智三藏ノ說^ク梵網經者是金剛頂淺略之分^{云々}文^{所引ノ廣智二}

藏說者義訣ノ文也何況^ヤ義訣云金剛菩提三藏阿闍梨ノ云々。一行禪師

求^ニ我^{レニ}灌頂^ヲ聞^レ有^ニ此異希ノ法門^一乃^チ令^ニ伊舍羅^ヲ譯^{シテ}為^ニ漢文^一一行等^②

乃親^マ自筆授^ミ文^{一行若為^ニ撰者^一者豈可^{ケン}載^ニ此^一言^ヲ乎抑以義訣^ヲ為^ニ}

不空之撰^ト匪^ニス東寺一家^一山門ノ傳亦如是^一教時義第三云沙門智藏ノ

金剛頂ノ義訣^ニ云^{云々}八家惣録云金剛頂經大瑜伽秘密心地法門義訣

智藏^云智藏^ト者不空ノ法諱也依^テ之^{スル}為^ニ一行ノ記^一之說山門又非^{シテ}為^ニ謬^ト

大原帖決云義訣者是智藏三藏所製也或一本ノ注^ニ一行阿闍梨ノ記^一^③

云々大ナル誤也^云々可思之^一

第十四^三引文妄設相違

※

(第19紙)

金剛界記云如金剛頂義訣ノ中^ニ說^一南天竺^二國有大鐵塔^一中^ニ有金剛界^④

曼荼羅^一聖者ノ形像鑄鐵ノ所成^{ナリ}其塔中^ニ有梵匱^一廣^サ八九尺高下^④
五六尺文

私云聖者形像鑄鐵所成者義訣之中^ニ全無^シ此言^ハ雲公安設更^④
以無疑如^{キハ}本文^一者得諸佛菩薩指授^一云塔中ノ聖者皆是真實^④

佛菩薩也鑄鐵所成大^ニ招^ク相違^一次^ニ廣^サ八九尺^{云々}是亦所^{ナリ}無義訣^一
也次^ニ高^サ五六尺^{云々}訣ノ本文^{ニハ}厚四五尺^{云々}是亦似^{タリ}相違^一矣

第十五^四二佛同躰相違[※]

同記云阿闍梨自云從毗盧遮那如来^{即尺迦如来是此約法性身為名}在世文

私云尺迦大日二佛各別云^ニ種^ニ三尊ノ不同^一云^ニ尊位之差別^一旁不可

混^一之^ヲ胎藏界曼多羅^{ニハ}毗盧遮那^ハ居中臺^ニ尺迦^ハ住^ス第三院^ニ金剛^④

界曼荼羅^{ニハ}且^ク依^ニ成身會^一大日^ハ住^シ内院^ニ尺迦^ハ為^{シテ}賢劫ノ千佛之隨^④
一^ト居^ス外院^ニ而^ル作^ス二佛同躰之想^一故於^テ法身^ニ論^ス在世滅後^一兩部ノ大經

之中^ニ雖^モ為^{リト}一處^一無^下於大日^ニ論^{スル}在世滅後^一之文^上雲公ノ妄計未脱^ニ顯

網^一故也

第十六^五 不空付法相違

同記云三藏和上又以法^一傳^二付保壽寺ノ含光寺ノ弟子五人^一一^二含光^三。二^三大

興善寺惠朗阿闍梨。三青龍寺曇貞阿闍梨。四保壽寺覺超

阿闍梨。五青龍寺東塔院惠果阿闍梨。文

又云入^レ室^一傳^二阿闍梨灌頂^一數唯^シ五人^一如前^ノ文^ニ文^ニ已叙^ハ

私云表製集第三^{遺書}云吾^カ當代灌頂三十餘季入壇授^レ法ノ弟子頗^ル

多^シ五部琢^{ツク}磨^{シテ}成^レ立^{セルハ}八箇^一淪^{シテ}士相次^{シテ}唯有^六人^一其^レ誰^カ得^{タル}之^一則有^{下リ}金闍^ノ 43

(第20紙)

含光^ニ新羅惠超青龍ノ惠果^一崇福ノ惠朗^一保壽ノ元皎^ニ覺超^上後學有^{ラハ} 44

疑汝等開^ニ示^{シテ}法燈^ヲ不^{シメテ}絶^{サテ}以^テ報^{セヨ}吾^カ恩^ヲ文^ニ不空付法ノ弟子以^ニ此文^一為指

南^ト雲記已^ニ違^ス之^ニ是故為謬說^ト也同遺書云青龍ノ曇貞、大法真

言吾先^{キニ}授^与至^{テハ}於契印^ニ渠未^レ得^レ之汝等為^レ吾轉^{シテ}為^{メニ}授^印文^ニ已^ニ

以不許印契^一何^ソ可^{ケン}及灌頂^ニ乎阿闍梨灌頂ノ文同可謂^ツ謬說^ト矣

第十七^六 惠果付法相違

金剛界記云阿闍梨諱惠果。所傳、金剛界ノ法ハ者。成都府ノ惟尚阿

闍梨ニ汴州ノ辨弘阿闍梨。新羅國ノ恵日阿闍梨。義操阿闍梨。已

上十四人皆授カル大教ヲ文

胎藏記云阿闍梨又傳ニ付。成都府ノ惟上或云汴州辨弘新羅恵日。已上タモシ所レ有

レ法者數有文

十一人

金剛界記

又金剛界記云青龍寺東塔院ノ義操阿闍梨所傳ノ金剛界ノ法ハ則有

當院ノ同學ノ僧ニ法潤阿闍梨ニ義真ニ義舟ニ義圓ニ。已上十三人ハ義操阿闍梨授ニ金剛界大法一故

私云如ニ吳殷カ恵果ノ行狀一者訶陵ノ辨弘新羅ノ恵日ニハ并ニ授ケ胎藏ノ師位一

鈿南ノ惟上河北ノ義円ニハ授ク金剛界ノ大法一々而雲ノ記ニ以テ辨弘恵日惟上ノ

三人一并ニ列ヌ両部ノ付法ニ是又行狀ノ意ハ以テ義圓ヲ為青龍ノ直弟ト雲記

為孫弟ト又青龍ノ碑文弘法大師撰性靈集第二載之云訶陵ノ辨弘ハ経テ五天ヲ而接足シ新45

羅ノ恵日ハ涉三韓ヲ而頂戴ス鈿南ニハ則惟上河北ニハ則義円ヲ欽フルヒ風セキラ振レ錫46

渴ネカデ法負ヲフ笈フムハコヲ若セシ復印可紹セウノ接者ハ義明供奉ヒトナリ其ノ人也文和尚遺

弟且千高祖應撰イクノハクノ正製玉ヲ此文一一朝用之万人許之可信ノ證誠不

可如ク之^一何況吳殷正^ク聞^キ和尚ノ直説^ヲ親^{マノ}見^ル門徒ノ受学^ヲ其ノ所^ロ記

(第21紙)

著^{スル}誰人^カ疑^シ之^一海雲為^{シテ}青龍ノ孫弟^ト和尚入滅ノ後^ニ經^テ數廻^ヲ始^テ製^ス此ノ記^ヲ
用捨在^レ暗^ニ誰^カ迷^ハ是^ハ非^ニ矣

第十八^七互為師資相違

金剛界記云時^ニ三藏金剛智知^三中天竺^ニ國無畏三藏解^ニ大毗盧遮那教^一

歎^{シテ}言^ク此ノ法ハ甚^ハ深^{ニシテ}難^レ逢昔於南天竺^ニ國^ニ聞^レ有^ニ大毗盧遮那胎藏名^一

遂^ニ遊^テ五天^ニ訪^ル求^{スル}都^テ无解^{スル}者^一今至大唐^ニ喜^レ遇^{コトヲ}此法^ニ遂^ニ請^{シテ}無畏三藏^ヲ

求^レ授^{ランコトヲ}大毗盧遮那大教^ヲ互^ニ為^{ナリ}師資^ト傳^ニ受^ニ二本ノ大教^ヲ文

胎藏界記云无畏三藏和尚復將^{モテ}此大毗盧遮那大教王^一付囑南天竺

國三藏金剛智^ニ々々々々復將金剛界ノ大教王^ヲ授善无畏^ニ互^ニ為^{ナリ}阿闍

梨^ト遙^ト相傳授^ス文

私云无畏金剛智於^テ天竺^ニ不兼学^セ両部^ヲ於唐朝^ニ互^ニ為^{ナリ}師資^ト傳授^ス

二本ノ大教^ヲ云^ク此説不然^ヲ金剛智年三十一^{ニシテ}随^テ龍智^ニ傳^フ両部^ヲ前^ニ引^ク貞

元録ノ第十四載^テ而炳焉^{ナリ}件ノ録者西明寺翻經臨壇ノ沙門圓照等奉^テ

勅^ヲ撰^ス之^一諸宗共^ニ用^キ一天盛^ニ行^ス誰人^カ不^シ依此文^ニ乎次不空再天ノ時

隨^テ龍智^一受^ニ向部^ヲ此義次下ノ篇^ニ示^ス之^一金剛智已^ニ為^ニ龍智弟子^一豈^ニ云^ニ五天訪求都

无解者^ト乎^一已上ハ金剛智於^テ天竺^ニ兼學^{スル}胎藏^ノ之證也次^ニ大日經疏第三云金剛頂ノ大本及^ヒ蘓悉

地等廣說地相々同第廿云法身而有自在神變加時此不足疑也如

瑜伽金剛頂中引數百喻大本廣說其意^文大本ノ金剛頂經者金

剛智來唐之時遇^テ難風^ニ沒^ス海中^ニ以^テ知^ヌ無畏於^テ天竺^ニ傳受大本ノ金

剛頂經^一依之讓^ル廣說^ヲ於彼經^ニ者也次^ニ貞元録第十四云虛空藏菩

薩能滿諸願最勝心陀羅尼求聞持法一卷^{出^{タリ}梵本ノ金剛頂經ノ成就一切義品^ニ略^{シテ}訳少分^一開元五年於西明寺苦}

提院^文金剛智ノ來唐ハ開元八年也不遇金智^ニ以前開元五年^ニ已^ニ譯^ス二

(第22紙)

金剛頂經ノ要品^一无畏何^ソ於^テ唐朝^ニ始而學^{セン}此法^ヲ乎^一已上ハ無畏於天竺^ニ兼字^{スル}金剛^ノ之證也

(第23紙)

第十八再天年紀相違

同記云次大唐天寶九載三藏不空阿闍梨自往五天遍求勝法^文

私云不空再天非天寶九年^ニ先^ッ再天之年^者。天寶二年欵不空

行狀云祖師示^{シテ}疾^ヲ而終^ル是ノ時開元二十九年ノ仲秋^{ナリ}矣影塔既^ニ

成^テ以^三先^二奉^{ハル}先師ノ遺言^ヲ令^ム往^ニ師子國^ニ至^テ天寶ノ初^ニ到^ル南海郡^ニ文

金剛智開元廿九年八月十五日^ニ入滅影塔既^ニ成^テ之後令往天竺^ニ

貞元錄第十五云其ノ年九月五日勅^{シテ}令^ム東京龍門^ニ安置^セ至^ニ天

寶二年二月廿七日^ニ於^テ奉光寺ノ西ノ崗^ニ起^レ塔^ヲ文影塔既^ニ成^ト者天

寶二年於奉光寺ノ西ノ崗^ニ所^レ起^ル之塔也尔者天寶二年二月

廿七日已後再天至^{ニテ}同五年^ニ歸唐表製集第三<sup>三朝所翻經論
請入目錄流行表</sup>

不空自述^テ歸唐之年^ヲ云ク天寶五載却至上都^文行狀云天寶

五載還^ニ歸上京^ニ文而^ヲ天寶九載^ニ再天^ト者是大ナル謬也

(第24紙)

第十九再天一界相違

胎藏記云大興善寺三藏和尚從^テ大和尚金剛智三藏^ニ傳^ト授金剛界ノ法^ヲ

已^テ復恐^レ大教未^タ円^ミ自往^ニ南天竺國^ニ親^リ礼^ニ長季ノ普賢阿闍梨^ニ重^テ更^ニ

⑭

諮^ニ受金剛界五部百千頌法^一將^ニ得^一十萬偈經^一故^文金剛界記同之^一

私云不空再天之時遇^ニ龍智^一受^ト兩部^ヲ者漢朝ノ諸傳^ニ所載^ニ敢^テ無相違^一

表製集第四^{廣智^ニ藏譯^一飛錫撰}云開元廿九年ノ秋先師厭^テ代^一入^テ塔^ニ之後有^レ詔

令^メ賀^{モク}國信^ヲ使^ニ師子國^ニ其^ノ國^ニ有^ニ普賢阿遮梨耶^ト者^一位隣^リ聖地^ニ德為^ニ

時^ノ尊^{ヒラル}從^テ而問^フ津^ヲ无^ノ展^ノ乃^ト誠^ヲ奉^ル獻^ス金^ハ貝^ノ寶^ヲ■曰^{ハク}吾^カ所^ロ寶^ト者^一心^{ナリ}

也非^ス此寶^ニ也尋^チ即^チ授^ル以^ス三十八會ノ金剛頂瑜伽并^ニ毗盧遮那大悲胎

藏五部灌頂真言秘傳經論梵夾五百餘部^一僉^ニ以^テ為^ス得^ニ其^ノ所傳^ヲ矣^文

不空行狀超遷云大師他日^ニ尋^テ普賢阿闍梨等^ヲ奉獻^{シテ}金寶錦繡^一

之^ヲ請^レ開^シ十八會ノ金剛頂瑜伽法門毗盧遮那大悲胎藏建立壇法^一

高僧傳第二編年統論第十六佛祖統記第三十同之^一大師入唐之^一

時受青龍和尚之直說^一付法傳請來録平城灌頂ノ文等^ニ皆載兩部受

學之旨^一智證在唐之日受^ケ法全闍梨ノ口說^一謂^レ不^レ傳^ニ胎藏^一是亦依

憑^ヘ雲^ルノ記^ニ之故欽東寺之傳^ハ合本文^ニ三井之傳^ハ違本說^一兩^ニ之^一

邪正^{詳而察之}可知^セ之^ハ賢清僧都^セ両部相承抄云飛錫久^ク在^ニ三藏ノ訳場^ニ聞^キ、口説^ヲ
超遷^ハ又九年奉仕^{シテ}受^ク平生之命^ヲ其ノ所ノ著述^{スル}之碑^ニ并^ニ行狀ノ文^ヲ以^テ
備明鑑^ニ誰^{ラン}不^レ依用^一大師之説合^ス此寺ノ文^ニ最^モ可^レ信仰^ス法全闡梨^ヲ
口説其證何^{ニカ}在^{ルヤ}乎^{云々}可思^一

第二十護摩説處相違

(第25紙)

同記云此經中說一百廿五種護摩爐文

私云百廿五種ノ護摩爐^ト者金剛頂十八會ノ中ノ第三ノ會ノ説也十八會

指歸云次説第三會名一切教集^一瑜伽。此經中說一百廿五種護摩

爐一々爐所^一求各異^{云々}又諸部要目^ニ不^空明^ス金剛頂經ノ説相^ヲ一段云

一切如來教集瑜伽中一百廿五種護摩^{云々}而^ラ雲ノ記^ニ示^ス大日經ノ説相^一

之段^ニ云^フ此經中説^ト豈非謬^ニ乎

已上二十箇條管見之所及^一粗如此^一慈覺智證ノ両門以彼記^ヲ為^ス

本書^ト血脉錯乱職^{トシテ}而由斯^ニ山門ノ相實法印ノ抄^ニ名^ク審印^一就^テ海雲ノ記^ニ

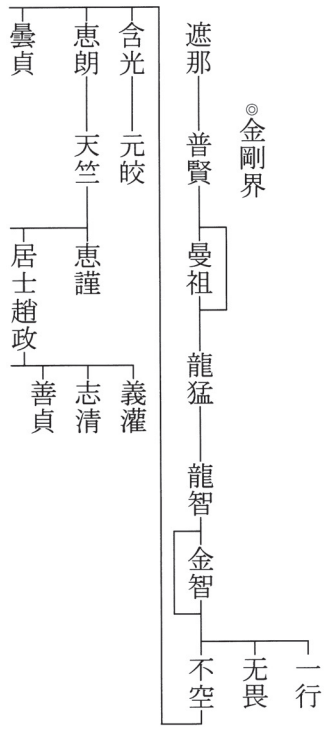
信謬譜

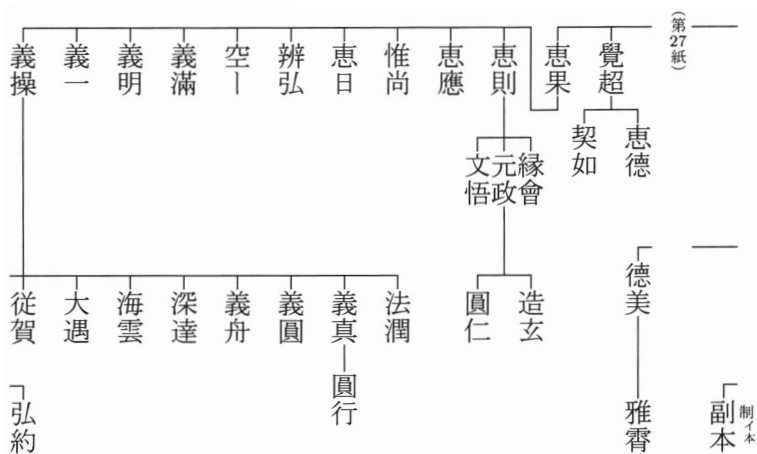
舉^ケ八箇條ノ疑^一畢^テ云^ク八箇條具^ニ不^レ能^レ存^ニ會釋^一ヲ只塞^デ目^一信^ス之^一既^ニ
慈覺智證ノ両大師傳受將來^{シテ}各以御筆^一安惠遍照等書流^ス耳
付^{クル}如^レ此問^一恐怖甚多^シ努力々々^一両三藏入滅ノ後既^ニ及^テ百歲^一佛法
漸衰^ル間轉展ノ誤^リ自^ラ非^レ可^レ无^{カル}欤致^{スハ}愚問^一為^レ聞^ニ賢^一答^一更^ニ非^三吹^レ毛^ヲ求^ル
疵^一耳^云天台ノ門人猶貽^ス疑^一況^ヤ於東寺門流^一哉若無^{クシ}門執^一者誰^ノ人^カ
不^{ラン}捨^レテ邪^ヲ就^ニ正^ニ矣

(第26紙)

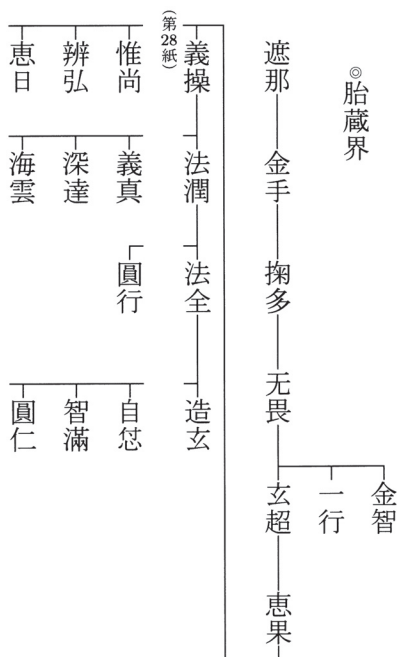
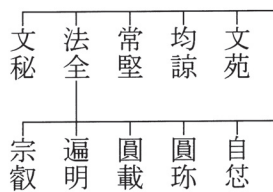
操^イ本
造玄記

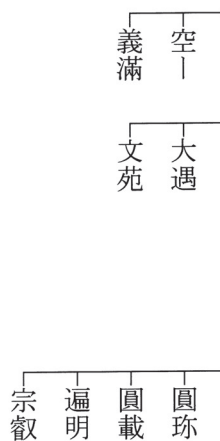
◎金剛界





◎胎藏界





◎批云大唐感通六年八月十七日長安右街慈恩寺造玄阿闍梨付屬師資血脉

私云此ノ記者唐ノ感通六年八月十七日慈恩寺ノ造玄阿闍梨撰之未

詳^{ニセ}誰人請来^{ト云コトヲ}若^シ宗叡ノ請来欵八家之内於^{ニテ}七家^ニ者歸朝皆感通

六年之前也宗叡ノ歸朝感通七年^{ナル當日本ノ貞觀七年ニ}之故也今披^テ此ノ記^ヲ而比^シ

校^{スルニ}本文^ニ其謬非^{一ニ}自惠果入滅之年^ニ永貞^{マデ}迄感通六年^ニ經^{タリ}六十年^ヲ

展轉口說謬說之起^リ非^ヤ為^ニ之^一乎勘^{フルニ}其ノ相違^ヲ略^{シテ}有十箇條^一矣

第一略出譯者相違 第二圓行相承相違

第三二祖付法相違 第四金界妙吉相違

第五胎闕二祖相違 第六金闕掬多相違

第七金掬師資相違 第八互為師資相違

第九義訣作者相違 第十大師祖承相違

第一略出譯者相違

造玄記云不空三藏譯六卷^文

私云六卷^ト者六卷ノ略出經也宗叡進官ノ録云金剛頂瑜伽中略出念誦

經一部六卷不空三藏譯云^々此等ノ說者皆以謬^{レル}欽八家ノ惣録^ニ注^{シテ}兩本^{ノ四}卷

略出經^ラ云兩本並金剛智[■]私云此二^ハ重出治^{シテ}六^ヲ為^レ四^ト頗有加減^一文^⑤

(第29紙)

但承澄僧正抄^ニ或^ル證本^ニ云治四為六^云雖然^{リト}治六為四之本尚勝^{タル}

欽其故^ハ金剛頂義訣者釋^ス六卷ノ經^ヲ彼ノ訣者金剛智ノ講說不空記^ス

之^一謂^ク金剛智始而譯^{セシ}此經^ヲ之時自講^ス之不空任^テ講^ニ記^ニ之例^{セハ}如下^シ無

畏三藏大日經翻譯之次^ニ講尺彼經^ヲ一行記^レ之名^テ為^{スル}疏^ト上^ニ金智豈^ニ就^テ

不空之譯經^ニ而作^{ンヤ}尺^ヲ乎加之略出經者西方ノ得灌頂者說授相付^ス金

智不空惠果次第相承高祖大師得^テ四卷ノ經^ヲ請来^之六卷ノ經若

為^ニ再治之本^一者豈不^{ンヤ}傳來^セ之^一乎當^レ知^ル六卷ノ經^ハ最初未定^之

本^ニ四卷ノ經^ハ最後治定之本也又貞元錄^ハ者不空ノ弟子円照錄之^一

⑤

不空若治^{シテ}四^一為^六者彼ノ譯經之内^ニ專可出之^一已以不然^一何^ソ為不空ノ治

本^ト乎又玄記ノ意義訣^ハ一行ノ製^{ト云}一行不空共^ニ金剛智ノ弟子^也一行

為^{シテ}法ノ兄^ト豈^ニ尺^{セシ}法弟不空ノ治本^ヲ乎義訣云乃令^{シテ}伊舍羅^一譯^{ナサ}為^中漢文^ト

一行等乃^チ親^リ自^ラ筆授^{モハラ}一依^ニ梵本ノ次第^ニ而述^ス其意^ハ不^レ失^セ句義未^レ円^{ナラ}

此以^テ竊^ニ觀^{スル}諸ノ修行者^ヲ縱^ヒ有^ニ尋讀^一莫^{ケン}知^{コト}所從^ヲ又淺智愚識亦為

難^レ入今以^レ此^ヲ承^{ケテ}旨授^ヲ頗^ル得^ニ其趣^ヲ秘密之旨略^{シテ}在^ニ文言^一属^{アツラエタル云モノ}法ノ流行^ヲ強^ニ

開^{ニテ}方便分別ノ門^一標^ス其旨歸^{ヲ文}如^{ナラ}玄ノ記^一者一行受^{ケテ}金剛智ノ旨授^ヲ開^{レテ}門

標^ス歸^ヲ如前云^カ金智豈^ニ就^テ不空ノ治本^ニ令^{メシ}旨授^セ乎思^ニ文ノ承来^ヲ金智所

譯ノ六卷ノ略出經其意^ハ不^レ失^セ一句義未^レ円^一是故受^テ金智ノ旨授^ヲ製^{スト}此ノ義

訣^一見^{タリ}云^フ不空ノ譯^ト旁違^ニ文理^一者也

第二円行相承相違

私云玄記^ニ所列^一胎藏^ハ大日金薩掬多無畏玄超惠果義操法潤円[×]

円行金剛^ハ大日普賢曼祖龍猛龍智金智不空恵和義操

(第30紙)

義真^ニ円行^{云々}而^ル如^キハ 円行請来録^一者^ニ兩部共^ニ受^ク義真^ニ其源又一

流ノ相承也彼録云幸遇彼寺灌頂教主法號義真和尚以為師主

其大德則惠果阿闍梨弟子同門義操和尚付法之弟子也明閑三

教妙通五部法之棟梁國之所歸円行幸賴聖朝之鴻恩師主之

深慈決疑兩部之大法開悟諸尊之密法潤正月二日蒙授阿闍

梨位灌頂也^文 又云大日如來金剛薩埵龍猛并龍智并金剛三藏

不空三藏惠果和尚^{義操和尚}義真和尚次第相傳即授円行^文 玄闍梨ノ説

已^ニ違^ス円行ノ自録^ニ是故^ニ為^{スル}謬説^ト也⁵⁸

第三二祖付法相違

私云不空惠果二祖付法ノ弟子相^ニ違本文^ニ如下^シ破^{スル}雲ノ記^一第十六^五第十

七^六注^一但如玄記^一者尚添^{ソフ}謬^一謂^ク如不空遺書^一者保壽ノ元皎三藏付法

之專^一也而^ヲ玄記^ニ含光ノ弟子^ニ列^ヌ元皎^ヲ又如吳殷^カ行狀^一者義明随^テ

惠果^ニ傳^フ兩部^ヲ然^ルニ玄記^ニ金界^ニ列^シ之^一胎藏^ニ闕^ス之^一豈非相違^一乎

第四金界妙吉相違

第五胎闕二祖相違

第六金闕掬多相違

第七金掬師資相違

第八互為師資相違

第九義訣作者相違

第十大師祖承相違

私云已上七箇條如_下破_{スル}雲ノ記_ヲ中_ニ注_{スル}カ_上矣

(奥卷)

右為頼恵公注之且感當時

69

法器且存将来弘通之故也

伏乞高祖垂照鑑令成

弟子所願給而已

延文五季正月十八日法印權大僧都杲一（花押）
60

（異筆）

「賴惠改名憲杲」

注

- ① ◎、原本デハ朱丸。以下同。
- ② (惟尚ノ) 城都、不明字ヲ擦消シテ重書。
- ③ 義政・法全・茂炫、紙継目ニ乗ル。
- ④ 愍、金剛界ハ「愍」ニ作ル。
- ⑤ 動^レハ、「多」ヲ墨抹シテ右傍書。
- ⑥ 感、ママ(咸)。以下同。
- ⑦ コノ行、紙継目ニ乗ル。
- ⑧ 第十八、行間ニ補入。
- ⑨ (双注右行) 製、ママ(制)。以下同。
- ⑩ (付龍樹ノ下) ○、補入符カ。下ノ「知龍」字間ニ移動符ノ如キ墨線アルニ対応スルカ。
- ⑪ (不空ノ下) 墨短線、句読点ナルベシ、後文ニモ間々アリ。聖上、両字トモ去声点アリ(墨筆)。
- ⑫ 得ノ返点ニ、字画左傍ノ上下中央ニアリ。以下同。
- ⑬ 貽、左傍ニ墨線アリ。
- ⑭ 垂近ノ音合符、ママ。
- ⑮ 将、左傍ニ訓「ヲモテ」アリ。
- ⑯ コノ行、紙継目ニ乗ル。
- ⑰ 箸、ママ、「著」ト通用カ。
- ⑱ コノ行、紙継目ニ乗ル。
- ⑲ 推ノレ点、後補ナルベシ。
- ⑳ 行頭「傳」ノ捨仮名テ、墨抹。
- ㉑ 承、「傳」ニ重書。
- ㉒ 末・聞ノ字間、レ点アリ。
- ㉓ (列^{スル}ノ) ス、「へ」ニ重書。
- ㉔ 印度ノ其故、墨抹。
- ㉕ (南天竺國ノ) 天、「竺」ヲ書キカケテ重書。
- ㉖ 磔、實際ノ字形ハ石偏ニ(人偏ノナイ) 傑。『大唐西域記』ニ見ル「磔迦国」ナルベシ。後出モ同ジ。
- ㉗ 梧、平声点アリ(墨筆)。神、上声点アリ(墨筆)。吠、濁去声点アリ(墨筆)。
- ㉘ 廣、字画右下ニ捨仮名「ノ」ヲ書キ擦消。
- ㉙ 海雲ノ之ノ内、墨線ニテ抹消。
- ㉚ 髻鬘、墨筆左訓「カミカヨリ」ハカク「トアリ(他ノカタカナト同筆。カヨリ、存疑)。
- ㉛ 神、平声点アリ(墨筆)。人、濁平声点アリ(墨筆)。
- ㉜ 元、濁入声点アリ(墨筆)。
- ㉝ コノ行、紙継目ニ乗ル。
- ㉞ コノ行、紙継目ニ乗ル。
- ㉟ 三千餘頌ノ四千頌、墨線ニテ抹消。
- ㊱ 約ノ捨仮名セハ、「ス也ヲ」ヲ墨抹シテ左傍書。
- ㊲ 我ノ捨仮名レ、「カ」ニ重書。
- ㊳ 注ノ捨仮名ニ、「セ」ニ重書。注ノ返点ニ・記ノ返点ニ、墨抹。
- ㊴ コノ行、紙継目ニ乗ル。
- ㊵ 匱、實際ノ字形ハ口ノ中ニ夾。
- ㊶ 苦、不明字ヲ書キカケテ重書。
- ㊷ 成、濁平声点アリ(墨筆)。

- ④③ コノ行、紙継目ニ乗ル。
- ④④ 元、濁去声点アリ（墨筆）。
- ④⑤ 訶・陵・辨・弘、平声点アリ（墨筆）。
- ④⑥ 羅・三、上声点アリ（墨筆）。頂・戴・釵・南、平声点アリ（墨筆）。
- ④⑦ 未、字画左下ニ捨仮名「コトヲ」アリ。
- ④⑧ 乃、濁上声点アリ（墨筆）。
- ④⑨ 以ノ返点三、ママ。
- ⑤① 大、右傍ニ振仮名「ス」ノ如キ字画アリ。
- ⑤② 編年統論、宋・祖琇『隆興仏法編年通論』ナルベシ。
- ⑤③ （右傍記）察之、察ニ捨仮名「セヨ」、之ニ返点一アリ。賢、平声点アリ（墨筆）。錫、濁入声点アリ（墨筆）。
- ⑤④ 寺、ママ、「等」ノ誤写カ。
- ⑤⑤ 釋ノ返点一、「上」又ハ「二」ニ重書。
- ⑤⑥ ■■、「海珍」ノ如キ字画。
- ⑤⑦ 定、不明字ニ重書。
- ⑤⑧ 令ノ返点、「下」ノ右傍ニ「二」アリ。
- ⑤⑨ 自、「目」ノ可能性アリ。
- ⑥① 奥卷、本文共紙。ソノ意味デハ第31紙トナル。見ラルル如ク、本文ニ比シテ著シク大字。
- ⑥② 杲一、異筆。